



薬剤師から見た 能登半島地震

～地震災害支援が私たちに教えてくれること～

災害から学び、災害に備える

被災地で支援活動をした薬剤師の先生から、
モバイルファーマシー（※）による
被災地支援の現状についてお話いただきます。



※モバイルファーマシーとは
災害対策医薬品供給車両のことです。

講 師：すみれ薬局薬剤師

港北区薬剤師会 副会長 市川 浩 氏

令和7年2月9日（日）13時30分～15時



市川 浩 先生

市川氏が実際に被災地で見た現地の写真を一緒に見ながら、決してニュースでは流れない逼迫した現状のお話を聞かせていただきました。
また普段聞けない薬剤師の視点からみた苦しい支援活動の様子などの説明があり、被災地でのボランティア活動がこういったものかよく理解できました。
いざという時のマイナ保険証、お薬手帳（薬の名前をメモしたもの）の持参についてのアドバイスもいただきました。もっともたくさんの方に聞いていただきたいと思ったとても興味深い内容でした。

「避難所での大切なことを覚えておこう！」

◇避難リュックの準備。

お薬・おくすり手帳・薬の情報書（メモ）も忘れずに。

◇土足厳禁！トイレ等を行き来する靴は菌の温床です。

感染症・食中毒対策にもなります。寒い時期は厚めの靴下で体を冷やさない工夫を。

◇トイレの使い方のルールを決めよう！

避難所や集合住宅での水の供給状態を把握しよう。
トイレ機能が停止した状態で水を流すと大惨事！！
携帯トイレの準備をしておきましょう。



自分がどんなお薬を使用しているか覚えていますか？



どんな簡易トイレがあるか知っておきましょう！



新羽地区社会福祉協議会
米山 健二 会長



ご参加いただき誠にありがとうございました。

